

競 技 注 意 事 項

1. 本競技会は、2026年度日本陸上競技連盟規則並びに本大会要領により実施する。

2. 競技場使用について注意

- (1) 更衣は、管理棟内の更衣室を利用し、貴重品は各自で責任をもって管理すること。
- (2) 練習は補助グラウンドを使用すること。また競技場においてリレー競技を行わない時間に限り、競技場バックストレートを練習会場として開放する場合がある。(アナウンスにより合図する)
- (3) 競走競技においてフィニッシュした後は、第2・第3・第4コーナーをまわってスタート地点に戻るか、メインスタンド東側の階段を上り、メインスタンド外側通路を使用すること。
(※大会本部のある正面スタンド前は通行しないこと)
- (4) メインスタンドの上段部にのみテントの設置ができる。

3. 競技者招集

(1) 招集時間は下記のとおりとする。

① トラック競技

1次招集	招集所にて	競技開始時刻50分前開始、30分前に完了
2次招集	スタート地点にて	競技開始時刻10分前に完了

② フィールド競技

1次招集	招集所にて	競技開始時刻1時間10分前開始、50分前に完了
2次招集	競技場所にて	競技開始時刻30分前に完了

③ リレー競技

オーダー提出締切	招集所にて	1組の1次招集完了時刻60分前に完了
1次招集	招集所にて	競技開始時刻50分前開始、30分前に完了
2次招集	それぞれの走者スタート地点にて	競技開始時刻10分前に完了

(2) 招集場所及び方法は次のとおり。

① 1次招集は、招集場(競技本部、上の園路沿いスペース)で行う。

ア. 提示されたリストの自分の番号に○をつける。
イ. トラック競技は(リレーは最終走者のみ)「腰ナンバー標識」をとる。
ウ. アスリートビブスの点検は2次招集(現地)で受けるのでまずは自分で確認しておく。
エ. ア〜ウが完了したら、各自で競技場所(現地)へ移動する。

② 2次招集は、競技場所(現地)で行う。(競技箇所図を参照)

カ. 代理人は認めない。
キ. 2種目を同時に出場する競技者は、予めその旨を本人、又は代理人が競技者係に申告し許可を受けること。その際、「多種目同時出場届A」を渡すので記入し、提出すること。
ク. 競技役員の指示に従って、最終コール及びアスリートビブスの点検を受ける。
ケ. 2次招集完了時刻に現地にいない競技者は当該種目の参加から除外されDNSと記録される。

(3) 欠場者は、競技者係に1次招集完了10分前までに欠場届を提出すること。代理人による提出も認める。
欠場届は招集所で受け取ること。

4. 用器具について

(1) 「ボール」と「やり」は私物の使用を認める。但し、以下の場所、時間に検査を受けること。

「やり」	用器具庫(大会本部のある正面スタンド内)	競技開始1時間30分前～1時間前
「ボール」	棒高跳ビット	競技開始前

5. 競技について

全 般

(1) トラック競技及びフィールド競技の試技順はプログラム記載の通りとする。

- (2) トラック競技とフィールド競技にまたがって同時時間帯に出場する場合は、フィールド競技役員にその旨申し出てトラック競技を優先して出場することを原則とする。
- (3) アスリートビブスは胸背部に付ける。但し、跳躍競技の競技者は、胸または背につけるだけでもよい。
- (4) 競技者とコーチ等指導者のコミュニケーションの場所として、競技区域外にコーチ席を設ける。競技者への助言はコーチ席から近隣の関係者と距離をとって行うこと。コーチ等指導者がコーチ席内から選手とコミュニケーションするのは助力にあたらない。なお、競技本部前での助言は慎むこと。
- (5) ビデオ装置、レコーダー、ラジオ、CDプレーヤー、トランシーバーや携帯電話もしくはそれらに類似した機器を競技区域内で所持または使用することはできない。(フィールド競技者は、競技区域外から撮影された録画映像を録画映像を提供する者のすぐ近くの位置であれば、競技区域内に持ち込むことが認められる。ただしコーチ席前に限る)

トラック競技

- (6) トラック競技に出場する競技者は、配付された「腰ナンバー標識」を右腰やや後方に貼り付けること。
- (7) リレーに出場するチームは、上衣は同一ユニフォーム、下衣は同色で参加しなければならない。
- (8) セパレートレーンを使用する競走種目では、競技者の安全のためフィニッシュライン通過後も自分のレーン(曲走路)を走ること。
- (9) リレー競走で使用するマーカー(5cm×40cm以内の粘着テープ)は出場チームで準備すること。使用したマーカーはレース後に当該チームにおいて必ず取り除くこと。
- (10) 100m及び200m種目における第1レースの種別毎上位8人は、第2レースに出場することができる。

フィールド競技

- (11) フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従う。
投てき種目の練習会場は、競技開始予定時刻30分前から競技場内投てきピットを開放する。
- (12) 全ての競技者に3回の試技を与える。またトップ8の競技者にはさらに3回の試技を与える。
- (13) 棒高跳のバーの最初の高さは(出場者の記録を考慮し)、競技開始前に告知する。
また、バーの上げ方も、5cm以上で(出場者の記録を考慮し)、競技開始前に告知する。
- (14) 走高跳のバーの最初の高さは(出場者の記録を考慮し)、競技開始前に告知する。
また、バーの上げ方も、2cm以上で(出場者の記録を考慮し)、競技開始前に告知する。

シューズについて

- (15) スパイクは使用してもよい。

スパイクピンは以下の長さの平行ピンを使用すること。

トラック種目、走幅跳、三段跳	9mm以内
走高跳、やり投	12mm以内

※全天候型トラックでも使用できるとされている鋭利なピン付きスパイク(ニードルピン)は使用できない。

※素足での競技は禁止する。

- (16) 本競技会では、ワールドアスレティックス(WA) 承認シューズリストのシューズを着用していることを前提としているため、招集所や選手受付などで、参加者全員のシューズチェックは行わない。
ただし、「審判長」の権限により、いつでもシューズチェックをすることができ、参加者はその指示に従わなければならない。明らかに規則違反のシューズや疑義のあるシューズは、チェックや回収の対象になることがある。万が一レース後に違反が認められた場合には、失格となり記録が取り消される場合がある。
- (17) 靴底の厚さは、トラック競技、フィールド競技ともに20mm以内とする。

6. 記録の発表について

- (1) 記録の掲示は行わず、WEB上にて発表する。

プログラム表紙及び園内各所に掲示する二次元コードを読み取るか <https://result.hokutan-rk.jp/> にアクセスすることで閲覧することができる。

7. その他

- (1) 競技中の障害・疾病については応急処置は主催者にて行うが、以後の責任は負わない。
(傷害保険の範囲内にて対応とする)

- (2) 競技場周辺の清掃に留意し、ゴミは各自で全て持ち帰ること。
- (3) 競技場の用器具、機器等を破損等した場合は、大会総務に必ず申し出ること。(保険対象となる場合有り)
- (4) 雷鳴が聞こえるなど雷雲が近づく様子があるときは、主催者の判断で競技を一時中断する。
- (5) ウィルス性の感染症や悪天候などを含む、競技運営および安全確保に支障をきたす不可抗力事態が発生または発生する恐れがある場合は、主催者は必要に応じて大会中止、一部中止、日程変更、または種目内容を変更する場合がある。中止や変更などが生じた場合の詳細は北丹陸上競技協会のホームページで発表する。

グラウンド内競技箇所図

